

陸域観測技術衛星「だいち」(ALOS)による災害状況把握

Disaster Monitoring using ALOS PRISM and AVNIR-2

田中 庸夫 [1]; 大塚 力 [1]; 南 秀和 [1]; 松元 拓朗 [1]

Tsuneo Tanaka[1]; Tsutomu Otsuka[1]; Hidekazu Minami[1]; Takuro Matsumoto[1]

[1] 地理院

[1] GSI

大規模な地震災害発生直後を想定して、被災状況の把握による迅速な復旧復興活動の支援及び被害軽減を目的に、陸域観測技術衛星「だいち」の災害前後の観測画像を利用した画像間及び画像と地図データとの精密な位置合わせ手法、画像間の差分演算による被災地域の抽出手法を調査した。

この取り組みは、平成 19 年度から平成 21 年度の国土交通省総合技術開発プロジェクト「高度な画像処理による減災を目指した国土の監視技術の開発」におけるサブテーマの一つとして実施しており、平成 19 年度は画像間の精密な位置合わせ手法と差分演算による変化画像の抽出手法について取りまとめた。

平成 20 年度はこれらの結果を受けて、画像と地図間の精密な位置合わせに関する手法と、差分抽出だけでは実際に被災の有無について判別がつかない変化域に対する既存の地理情報からの被災可能性の推測について試みた。これらの取り組みや今後の課題について報告する。